

昨年12月に開催されたところが、当日発表した留学生が多数を占めた。

「やまなし留学生スピーチ生34人のスピーチの多くは、中でも印象に残ったのコンテスト」に審査員として参加する機会があった。全く異なるものであった。は、最後の発表者となった

県内の大学や短大に在籍する留学生による日本語のスピーチコンテストで、今回で15回目と長年続いているイベントだ。

展望台

今回は「こ

こでみつけた「小さな幸せ」がテーマであったため、参加前にはスピーチの内容は日常のささいな幸福に関する話が多いのではないかと予想していた。と

初、会話もままならず孤独感にさいなまれる中で「初めているが、自分が中国人と

ここでみつけた「小さな幸せ」

長江 敬

ここでみつけた「小さな幸せ」がテーマであったため、参加前にはスピーチの内容は日常のささいな幸福に関する話が多いのではないかと予想していた。と

内容であった。

このスピーチを聞いて、自分自身、コンビニの前で同様の態度になつていないかと胸に手を当てみると同時に、昨年来の外国人労働者の受け入れに関する国内での議論に思いが至った。県内でも、先般の改正入管法の成立を受け、海外からの労働者が一段と増加することが想定される。受け入れ側としては、そうした人々が日々「小さな幸せ」を見いだせる環境を整えていくことが重要ではないかと感じた次第である。(日銀甲府支店長)